

僕は今、ケニアに住んでいます。ケニアの首都ナイロビには、アフリカ最大のスラム「キベラ・スラム」があります。先日、知り合いのリリアンさんがスラムに学校を創ったというので、僕は家族と一緒に見学に行きました。

訪問前、僕はスラムは怖くて危ない場所だと信じ込んでいたし、人々がどうしてスラムから抜け出そうとしないのか疑問に思っていました。

キベラ・スラムは、家から車で15分、幹線道路を一本脇に入ると、道は急にガタガタ道になり、トタン屋根の家がずらっと並んでいます。車を降りて、密集した家の間を30分ほど歩くと「マゴソスクール」に着きました。

そこには、幼稚園児から高校生までの子どもたちが大勢いて、夢中になって英語を勉強していました。これまで学校に行けず、ゴミの山から銅を探して家族を養っている生徒がいたとリリアンさんから教えられました。僕は日本のように学校に行けることが、世界では当たり前でないと驚きました。

放課後、僕は学校近くの生徒の家に立ち寄りしました。その家の人は、スラムから出たくないと言っていました。なぜなら、スラムの中で協力して合って生きていることに誇りを持っているからだそうです。例えば、火事の時、他人の子を助けるために命を投げ出す人がいたり、孤児を引き取って育てる人がいたり、豊かな国の人でも難しいことを、スラムの人たちはごく普通に実践しているのです。

今回の訪問で、僕はスラムとそこに住む人々への印象が180度変わりました。人は貧しさの中でも互いを思いやり、支え合って生きることができると知ったからです。だから僕は、どのような環境下でも、人々が思いやりを忘れず、協力し合って生きていけば、そこに理想の平和な世界が生まれると考えました。僕はアフリカでの経験を活かし、将来そんな平和な世界を創っていきたいです。